

牧師室から (2023.2.19)

今週の水曜日(22日)から受難節に入る。真面目な信徒からは不謹慎と言われるかもしれないが、この時期に関連した映画を一つ紹介したいと思う。その映画は20年程前に話題になった『ショコラ』というものであるが、皆さんの中にはご覧になった方もいるかもしれない。舞台はフランスのある小さな村である。受難節での出来事であって、あらすじは省略するが、この作品にはキリスト教の風習、ヨーロッパにお於ける人種差別、村の権力者の傲慢と偽善、心に響く説教とは何か、愛と赦しなど様々な問題が提起されていると思った。何よりもキリスト教が定着していない日本において、このような作品が話題作となったのは不思議である。キリスト教を知らなければ本当に理解できないであろうと思ったが、そうでなくても人を魅了し、感動させる何かがあったのであろう。

かつて敬虔なピューリタンは日曜日には映画を見ることを禁じていたというのをどこかで読んだことがある。私も映画はそれほど観ないし、やはりサブカルチャーの一つであると思う。とはいえ、そこからメッセージを受け取り、思い巡らすことがあってよいのではないかと考えている次第である。

(鈴木淳一牧師)